

「見えるところの狭さ」 ～うわべで判断していませんか？～

Ⅰサム16：1-18

今、あなたの前に初対面の人があります。あなたに「この人はどういう人ですか」と尋ねるなら、あなたはどうか答えるでしょうか？また、何回か会ったことのある人、いつも一緒にいる人に対して同じ質問をしたらどうか答えるでしょうか。

私たちは人を判断するとき、初めは顔やしぐさなどでその人がどういう人か判断しようとします。そして付き合いが長くなるにつれて、その人が自分に対してとった行動からその人を判断するようになります。こうしてみえていくと、最初は表面的なところからだんだんと内側をみてその人のことを判断していきっているようにみえます。しかし、接する機会が増えていくなかで「あの人がこんな人だとは思わなかった！！」と思う人があなたのなかでできたかもしれません。それはあなたが知らず知らずのうちにその人を「うわべ」という固定概念で人物像を作り上げそれと比較し、思わぬ発言や態度で信じていたことが嘘であった、裏切られたと勘違いさせられているのです。もしかするとそれにより、失望したことがあるかもしれません。

では本当のその人を知るために、私たちは何を見て相手を判断しなければいけないのでしょうか？それはその人にとって悪い状況のとき、良い状況のときにできる表面的な言動だけで計り知れるものではなく、その人の心の中心を見ていくことが必要です。しかしこれは難しいことです。とかく、日本人は良いことでも悪いことでも思ったことをあまり口にしません。相手を気遣って言わないという経験をしたことがあなたにもあるのではないのでしょうか。しかしそれをお互いしていると、相手のことだけでなく自分のよさも分からなくさせてしまいます。人は誰しも人からどう見られているかを気にしています。だから誉められることは喜びです。また厳しい言葉であってもその人を思う言葉であれば嬉しいものです。しかしケンカをした時など、感情的になってつい口走ってしまう言葉はどうでしょうか。相手を非難、否定する言葉がでているのではないのでしょうか。思いと裏腹なことを言うってしまうこともあるのではないのでしょうか。そうになってしまうのは、本当は相手の内側の心を見ようとしていたのにいつの間にか目先や形のあるものに目を向けてしまったからかもしれません。今日は、人との関係で大切なことをⅠサム16：1-18から学んでいきましょう。

この時代、民は目に見えない神様でなく目に見える王を欲し、神様はそれを聞き入れ預言者サムエルを通して、サウルを王としました。しかし、神様に立ち返らず失敗を繰り返すサウル王を、神様は王位から退けられます。そして新しい王を立てるため、サムエルをエッセイのところへ遣わします。その時サムエルは自分が主に命じられて油を注いだサウルのことで悲しんでいました。人は失敗を繰り返すと自信を失い、また失敗をしてしまうかもという負の連鎖に入ってしまうのです。そうすると失敗したらどうしよう…という思いが先にたってしまう、成功するためでなく失敗しないために物事をしようとするようになります。そして物事の表面だけを見てすぐに判断しようとしてしまいます。

しかし神様が『人はうわべを見るが、主は心を見る』と言われるように、人間の心はうわべだけで判断できるものではなく、深い部分を見ていかなくてははいけません。あなたは、自分の心の深い部分がわかっていますか。自分でさえ一部しか見えていないかもしれません。もしかするとあなたは今、だめな自分、だめな相手を見て、自分がマイナスの状況のなかにいると思っているかもしれません。しかしその人は喜んでください。その内は素晴らしいことを神様をご存知で、あなたは神様によってそのことを知ることができるからです。初めから負のレッテルを貼り、だめな人と思って付き合いのうわべでなく、完全に赦し信じ、ゼロの状態で見えていきましょう。私たちは弱さを持っています。忘れたつもり、赦したつもりで完全に消しきれていない感情もあります。しかしこういう目線で人を見てしまうと、人も自分も傷つけることになってしまいます。一時のうわべで判断せず、長い目で心の奥底を見ていきましょう。間違った態度をとるのはそうせざるをえなくなった過去の傷があるのです。サムエルでさえそうだったのですから、私たちもそのことを認めなければはいけません。その中で、あの人よりましとか、どうせあの人という見方をせず、素直に物事の本質に目を向けられるようになりましょう。

人が心と心で向き合い、人の関係が心との関係となるために、①見るべきところは・・・人の心の真髄（Ⅰコリ12：21-24）人はそれぞれ役割をもって生きています。私たちは人のうわべだけを見てこの人はこういう人と判断してしまいがちです。あなたは、相手に言わなければならないことを言わず、自分のことにも目を向けず、のらりくらりと日々を過ごしていないでしょうか。あなたの周りにいる人がもし問題のなかでいて、あなたがそのことに気付いたのなら、それはあなたに任せられたことなのです。その人の問題を共に背負い解決していきましょう。そうすれば自分自身の問題も解決されていたことが後になって分かるでしょう。物事は表面だけを見て判断してはいけません。そういった判断でこの人はこういう人と判断するならば状況はなにも変わりません。しかしその人がどうしてそのような行動をするのか、態度をとるのかを知ろうとするとき、あなたの友、神様に目を向けることができます。②行うべきことは・・・心からなる態度（エペソ6：6,7）私たちは、生きていくなかで自分の心を偽って人と接することができるようになります。しかし、私たちはそれでははいけません。いつも自らを見つめ、どのように生きるかを聖書のみことばから学ばなければなりません。その日1日を振り返り、自分の歩みが誤っていなかったか、人に接する態度はどうだったか、本来すべきことができていたか、心は正しかったかを確認していきましょう。振り返ることであなたは自分の心を知り、人と向き合うこと、心から仕えることを知ることができるようになるでしょう。③歩むべきところは・・・正しい道（イザヤ53：1-7）私たちは、おのれの自分勝手な道を歩んでしまう生き物です。しかしその時、私たちの自己中心、私たちの罪、咎のために刺し通され十字架にかかられたイエスを思い、重荷を委ねて神の道を歩むことができるなら、私たちは神様の前に希望を持ち、誰かのために共に生きようという心を得ることができます。人を見かけで判断せずその人の心を見ることができれば、あなたの行く道で多くの人々が人生を変えることができ、自分自身が変わることができます。イエス・キリストはただあなたの重荷を負うために十字架にかかられました。ですからあなたの自己中心、あなたの過去の経験からくる傷、重荷を神様の前に下ろしましょう。そして自分の心の奥底を探り、神様の道を歩みましょう。（要約者：金光 瞳）